

近隣ネットとは…

ご近所のつながりをつくっておくためのしくみ

災害時には、お互いを助け合えるようにする、各自治会役員と防災ボランティアの集まりです。



あなたの力が必要です！
ぜひ、防災ボランティアにご参加下さい。

申し込みは各自治会まで

被災地になった場合は、公園などで自治会ごとに、在宅者数の確認・集計を行います。ご協力下さい。
(→表：近隣ネットボランティアへ参加)



ある日、警報が鳴り響いた。
数10分で津波が来るらしい。
ラジオで確認し、家族と連絡を取る。
お隣にも声をかけてみた。
家は高台にあり、津波の被害はなさそうだ。
こんな時も、避難所に行くべきなのか？
いや待てよ。道には下から逃げてくる人や
車が溢れ出した…

逃げる!!



数軒先に火の手が上がるのが見えた。火は屋根まで届き、その隣の家まで燃え出したではないかっ！

突然の大きな揺れに襲われ、サッシが外れ、壁にキレツが走った。扉も固くなかなか開かない。我が家は果たして持ちこたえてくれるのか？ 庭も道路もデコボコになった。

避難が必要かどうか ご自身で判断する

- 家屋の損傷が激しく、倒壊の危険がある
- 火災が発生している
- 津波や土砂災害などの危険がある
- 自治体からの避難勧告、指示がある

逃げる!!

逃げる!!



揺れと共に地面が滑り出した。家にいたら危険だと思い、慌てて子どもの手を引いて外へでた。



一見して大丈夫そうなお宅でも、数日後から数週間後に実施された「応急危険度判定」で立入禁止になることも。

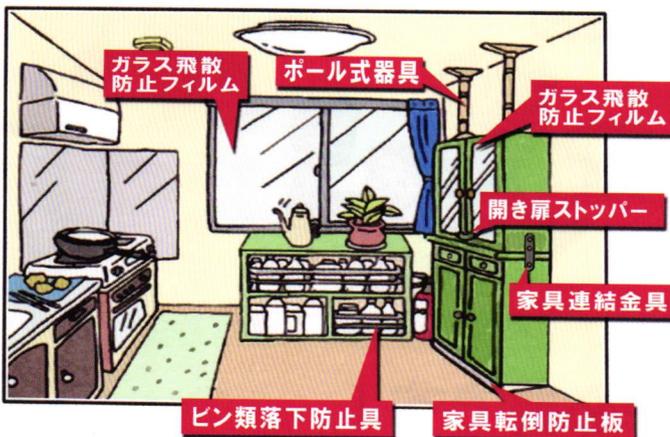


家ではなく土地そのものが危険とされると立ち入るのも難しくなります。



※家の危険度を見極めるのは難しい場合がありますので、不安を感じた時や、高齢ですぐには逃げられない方は大事を取って、早めに避難される事をお勧めします。

家の中を安全にして暮らそう



素足では逃げる時に怪我しますので、予備の靴かスリッパを置きましょう！

編集後記：3.11の悲劇を振り返り、常に最悪のシナリオで考えよう。これは“自分の命は自分で守る”の鉄則です。9月22日(土)片瀬中学校での防災訓練に参加しましょう。



発行：片瀬山防災会

連絡先：メール kataseyama.bousaikai@gmail.com

発行責任者：会長(鶴岡) 編集責任者：広報(川副)